

(様式1-1)

庭園間交流連携促進計画（周遊部門）

森の京都ガーデンツーリズム



～森と里山の庭めぐり～



令和5年2月

森の京都ガーデンツーリズム協議会

取組の将来像（ビジョン）

「森の京都」は、国際観光都市・古都京都の北西部に位置する深緑に囲まれた地域であり、山河の恵みを受けて豊かな森とともに発展してきた「もうひとつの京都」です。山から湧き出す清らかな水と肥えた大地は、古くから京の都の繁栄を支え、長い年月をかけながら、人々の暮らしと地域文化を育んできました。この「森の京都」エリアには、深緑の山々が連なり、清らかな川が流れ、農村ののどかな生活とともに育まれてきた里山の風景が広がります。

「森の京都」の深い森の中には、信仰を深めるために古くから神社仏閣が建立され、その森と人里の間に存在する豊かな里山には、日本の原風景ともいえる美しい景観が今もなお失われることなく広がっています。この「森の京都」こそ、日本の美しい風景の原点であり、京の都の傍らにある癒しと創造の空間は、自然の美を重んじる七代目小川治兵衛をはじめとした作庭家にインスピレーションを与え、数々の著名な庭園の礎となったともいえます。

世界中から年間 8,500 万人もの観光客が訪れる京都ですが、そのほとんどは京都市に一極集中しています。多くの観光客が「森の京都」エリアのすぐ近くまで訪れている一方で、雄大な自然と日本の美しい原風景を有する「森の京都」エリアのそれぞれの庭園の知名度が低いこと、滞在型の観光があまり定着していないことや、公共交通機関から観光地までをアクセスする二次交通が弱いことが観光振興を図っていく上で大きな課題となっています。

本計画では、国際観光都市・京都に隣接し、日本の原風景である美しい里山の魅力にあふれ、雄大な自然に囲まれた「森の京都ならではの庭園」の見どころを豊かな里山の恵みである「食」と大切に受け継がれてきた「文化」という 2 つの魅力とあわせて発信し、庭園間の連携を図ることによって、新たな観光客の獲得や滞在時間の長い観光に結びつけ、産業振興や地域振興につなげる取組みに育てていきます。

取組全体の範囲がわかる位置図

森の京都 亀岡市・南丹市・京丹波町・福知山市・綾部市・京都市右京区京北



構成庭園の位置図



計画のテーマ

深緑の森と豊かな里山に秘められた庭園を巡るなかで、森と里山の恵みを味わい、古から脈々と受け継がれてきた文化を感じるツーリズム

1. 森と里山の庭園という新しい捉え方

「森の京都」エリアは、京都市街地に近接しているにも関わらず、日本三百名山に数えられる愛宕山をはじめとした丹波高原や小倉百人一首の和歌にも詠まれた大江山などを有し、豊かな水源である清流・桂川や由良川が走る、美しい山河に恵まれた地域です。

京都府の森林面積は府域の約75%を占め、全国平均の約67%を上回りますが、特にこの「森の京都」エリアは、とりわけ森の恵みが大変豊かなエリアです。森は、そこに生きる生物だけでなく、農産物や豊富な水の供給によって、京の都をはじめ、多くの人々の生活を支えてきました。森の中には、食料となる動植物、燃料や資材となる木材、農耕を支える水など、人の生活文化に不可欠な資源が多種多様に存在します。さらには、仏教や神道の信仰を深めるために、豊かな森の奥深くには古くから多くの神社仏閣が建立されています。

「森の京都」には、かつて丹波国が存在していました。江戸時代後期に出版された「諸国名義考」という各国の名称の起源を記した書籍によると、丹波国の由来として「名義は田庭（たにわ）なるべし」とありますが、これは広く平らな場所の意味とされています。「森の京都」の玄関口・亀岡市の「霧のテラス」からは、眼下に水田が広がる、まさに「田の庭園」というべき美しい光景を楽しむことができます。私たち「森の京都ガーデンツーリズム協議会」は、この地の由来である「田庭」から着想を得て、「森と里山の庭園」という“新しい庭園の捉え方”を提案します。

○着想を得た霧のテラス（亀岡市）からの眺望“田の庭園”



私たち「森の京都ガーデンツーリズム協議会」は、雄大な自然や深緑に囲まれた神社仏閣の境内こそ美しい「森の庭園」であり、日本の原風景である里山こそが美しい「里山の庭園」だと考えています。しかしながら、これらの美しい「森の庭園」と「里山の庭園」は、近世に芸術的な構想のもとで作られた庭園とは性質の異なるものであることから、未だその魅力は多くの人々の知るところではありません。多くの観光客は、京都市にある著名な庭園に集中しているのが現状です。

そこで、「森の京都」エリアが国際観光都市・京都市の隣接地である点を活かし、古都京都にイメージされる観光地から「もうひとつの京都」エリアへ多くの観光客を誘客するべく、本計画では、この奥深い森と豊かな里山に恵まれた「森の京都」エリアにおいて、森と里山をテーマに庭園を選出し、その恵みである京野菜などをはじめとした「食」や「文化」を感じる観光と組み合わせて、従来の概念にとらわれない新しい目線でのガーデンツーリズムを提唱します。京都市内に点在する無鄰菴（山縣有朋別邸）や平安神宮神苑など、名勝といわれる庭園の多くは、この「森の京都」の自然美を縮景したものといえることができますが、その原点がここにはあり、「森の京都」こそ美しい「森と里山の庭園」であると私たちは考えます。

○2つのカテゴリーに区分される構成庭園



2. 森と里山の恵み

「森の京都」エリアは、古くから京の都を森と里山の恵みで支えてきました。昔から、この地で育まれた豊かな産物を京の都に届けていたという歴史があり、亀岡盆地を囲むなだらかな山々と亀岡市の北東部を悠々と流れる保津川は、豪商・角倉了以と息子の素庵によって開拓されて京都市・嵐山地区まで続く水路となり、400年以上も前から京の都に木材や穀物、薪炭を供給していました。

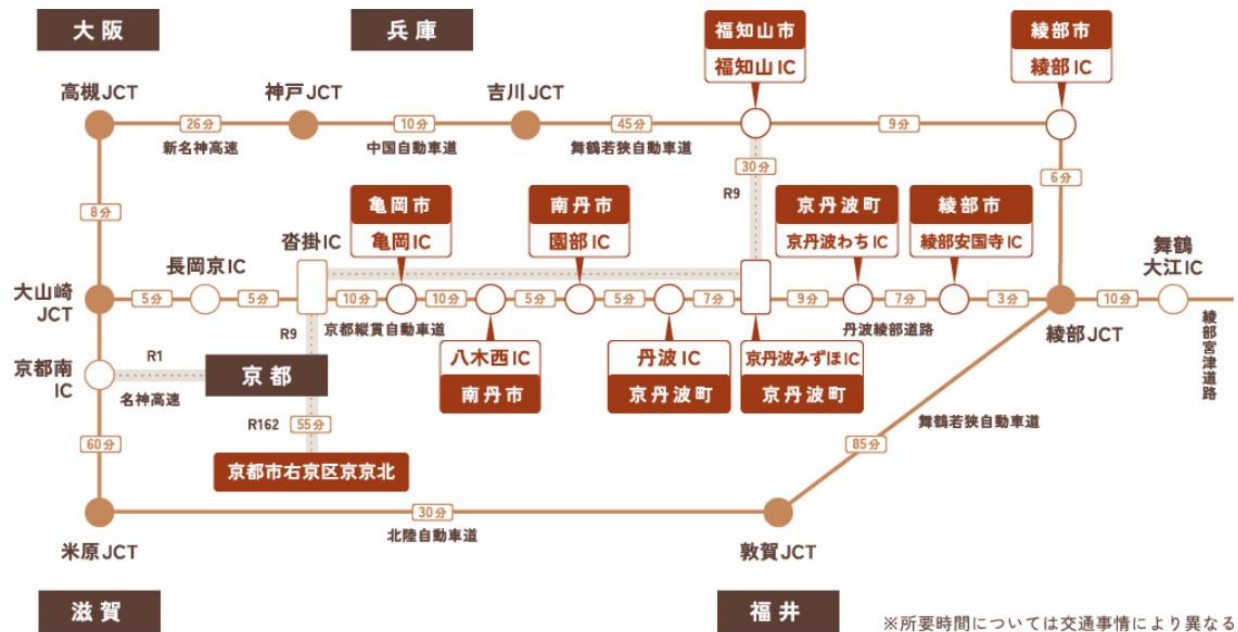
それは現代においても変わらず、保津川渓谷を通る水路は、観光船の舟下り「保津川下り」として世界各国から人気を集め、豊かな里山で育まれた京野菜を中心とした農畜産物は、京の台所を担っています。

3. 森の京都の強み

- ・ 地理的優位性及び大都市圏からの好アクセス

世界屈指の観光地である京都市の後背地である上に、舞鶴若狭自動車道及び京都縦貫自動車道の整備により、京阪神の大都市圏からのアクセスは約1時間となっています。公共交通機関を利用する場合でも「森の京都」エリアの玄関口である亀岡市は、JR 京都駅から快速電車で約20分の距離です。大都市圏からそれほど遠く離れてはいないものの、静かな保津川峡谷を抜けると、あたり一面にのどかな田園の風景、美しい日本の原風景が広がっています。

〈道路アクセス〉



○豊かな「食」

「森の京都」では、様々な農畜産物が生産されています。京野菜をはじめ、丹波黒豆、丹波大納言小豆、丹波栗、丹波松茸や亀岡牛、猪肉などのジビエ肉から鮎といった川魚まで、豊かな食材にあふれており、古くから京の美食を支え続けてきました。賀茂なすや京みず菜、聖護院かぶなどに代表される京野菜は、実は「森の京都」で多く生産され、全国に出荷されています。

構成庭園の周辺にも新鮮で美味しい農畜産物を手軽に購入することができる直売所や特産物を取り扱う飲食店があり、本計画と「森の京都」の農畜産物の連携は、認知度向上やブランド化にも効果を発揮するものと考えます。

〈森の京都を代表する食材〉



〈主な道の駅・農産物直売所〉



○文化の息づくまち

平安時代に京都が都となってから、かつての丹波国があった「森の京都」には、天皇家や公家の所領が多く設けられました。これにより、京都との間で人やものの行き来が生まれ、中央から多くの仏師や絵師が「森の京都」を訪れました。「森の京都」エリアには、京町家の影響を受けた建造物や京都の影響がみられる庭園が今もなお残っており、この「森の京都」の文化は、京都の文化の影響を受けながら発展してきたといえます。

また、「森の京都」には、古くから受け継がれてきたこの地域ならではの大切な文化があります。豊かな里山で生まれ、地域の人々の中で大切にされてきた文化は、今もなお絶えることなく現代に生きる人々に受け継がれています。

〈森の京都を代表する文化資産〉



〈文化資産〉



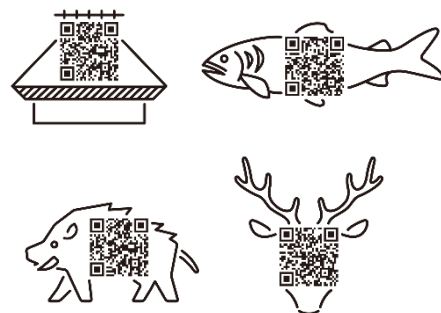
○交通事業者との連携

本計画の事務局を務める一般社団法人森の京都地域振興社（通称：森の京都 DM0）では、JR 西日本が JR 京都駅と JR 園部駅間で毎日運行する「森の京都 QR トレイン」の導入にあたり、京都府と連携した取組みを進めてきました。

また、地元のバス事業者である京阪京都交通株式会社、西日本 JR バス、南丹市営バス、京丹波町営バス、あやバス、京北ふるさとバスと連携したもうひとつの京都周遊バスを展開しており、構成庭園をお得な周遊バスで訪れることが可能となるなど、地域で一貫して取り組んでいきます。

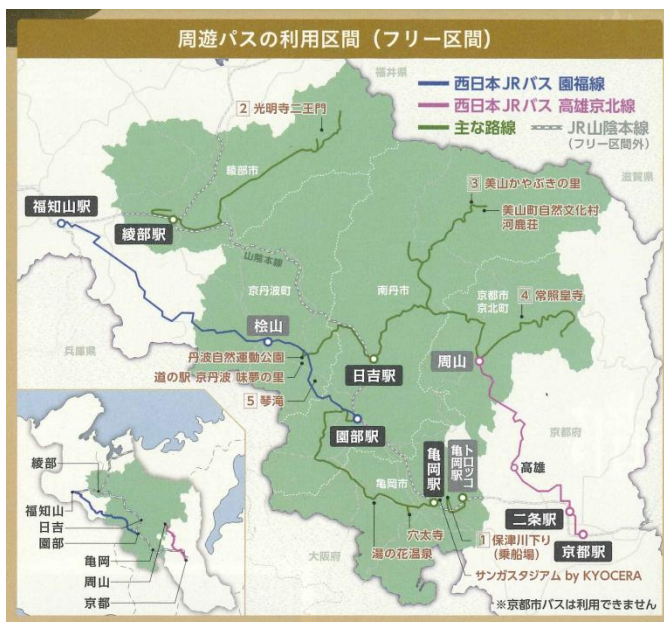
〈森の京都 QR トレイン〉

JR 京都駅・JR 園部駅間を毎日運行する、自然・暮らし・食・伝統工芸といった「森の京都」の魅力が詰まったラッピング電車です。外装には「森の京都」のコンセプトカラーである茶・黒・金を使い、エリアを代表する花・木・鳥をモチーフにした柄をデザインしています。内装は、「森の京都」エリアの伝統工芸や暮らしに着目したデザインで統一し、車内に散りばめた QR コードにより「森の京都」に関する様々な情報を発信しています。「森の京都」の上質なコンテンツがもたらす心地よい癒やし、まさに“Quality and Relaxing（クオリティ&リラクシング）=QR”なひとときを過ごせる電車です。



〈もうひとつの京都周遊バス〉

1日1,000円で6事業者のバス乗り放題



○カーシェアリング及びレンタサイクルの設置

大都市圏からの好アクセスに対し、主要な公共交通機関から各観光スポットまでのアクセスが発達していないことが「森の京都」エリアの弱みでしたが、最近では、JR 西日本やタイムズカーと連携した観光周遊カーシェアリングのステーションの設置やレンタサイクルの設置により、二次交通が改善しています。

〈もうひとつの京都 観光周遊カーシェアリング〉

JR 亀岡駅・JR 馬堀駅・JR 福知山駅・JR 綾部駅に 24 時間利用可能なタイムズカーを配車



〈かめまる観光レンタサイクル〉

JR 亀岡駅・JR 馬堀駅・JR 千代川駅に 24 時間利用可能なレンタサイクルを設置

スマートフォンアプリ「COGI COGI」（提供：コギコギ株式会社）で手軽に利用できます。

スマホアプリいつでもご利用可能! Rental e-bike/ スマート! かめまる観光 レンタサイクル

いつでも! 24時間 借りられる

きがるに! スマホで利用 予約は簡単

どこでも! 全国の駅で 借りやすい

利用料金 Price	基本料金 base fee	延長料金 extension fee
ちょい乗りプラン 1時間	220円	165円/30分
ざくっと観光プラン 4時間	1,100円	110円/30分
じっくり観光プラン 24時間	2,640円	110円/30分

貸出ポート E-bike rental port

- JR 亀岡駅北口ポート (亀岡駅北口)
- JR 馬堀駅前ポート (馬堀駅前)
- JR 亀岡駅南口ポート (亀岡駅南口)
- JR 千代川駅前ポート (千代川駅前)

COGICOGI SMARTI アプリは
こちらからダウンロードできます

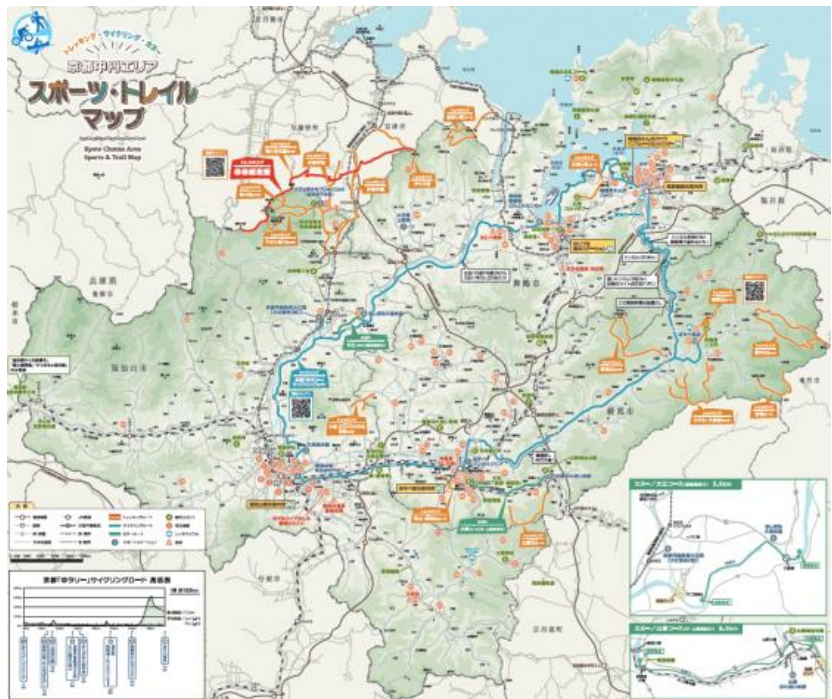
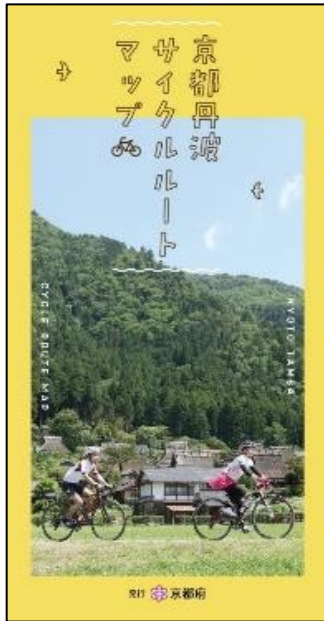
App Store / Google Play

※スマートフォン / PC / タブレット / スマートテレビ / 対応機種は、お問い合わせください。




○サイクルルート

「森の京都」エリアの魅力である日本の原風景や桂川、由良川の源流となる山々が織りなす美しい景色と共に、温泉、ダム、歴史文化史跡など様々な見どころのあるスポットをめぐるサイクリングルートを設定し、自転車通行専用帯の表示を行うなどサイクリング環境の充実を図っています。モデルルートと本計画の対象エリアは一部重複しており連携も可能です。



構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	きょうとふりつほづきょうしぜんこうえん ①京都府立保津峡自然公園	構成庭園の 所在地	京都府亀岡市保津町及び 篠町並びに京都市右京区嵯峨
1 構成庭園 の概要 (※2)	<p>京都屈指の溪谷美で知られている保津峡は、時の経過と急流が織り成す自然美でもありますが、先人を含め、人々によって作り出された「森の庭園」でもあります。この美しい溪谷は、歴史の深い「保津川下り」と「嵯峨野トロッコ列車」によって四季折々の景観を堪能することができます。</p> <p>保津川溪谷は、1606年に京都の豪商・角倉了以と息子の素庵に開削され、保津川の舟運は、丹波地域の産物を京の都へ運ぶ重要な物資交通路として発展しました。この歴史ある舟運が現在まで続き、観光の舟下り「保津川下り」として人気を博しています。「保津川下り」は1年を通して運航しているため、桜、岩つつじ、新緑、紅葉、雪景色とどのシーズンでもそれぞれの趣を持った美しい溪谷の景色を楽しめるのが魅力です。また、かつての京都鉄道株式会社の廃線を利用した「嵯峨野トロッコ列車」では、溪流や奇岩など自然の作りだす四季折々の美しい景観を車窓からゆっくりと楽しむことができます。</p> <p>現在の保津川溪谷は、かつて多数自生していた岩つつじが気候変動の影響などによりその数を減らしていることから、地元有志の会である亀岡山野草を守る会などが中心となって、この半世紀で約 62,000 本もの補植作業を行うことで景観保全に努め、美しい溪谷の景観を守り続けています。</p> <p>【開園面積】 71.3ha 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 【施設管理者】 京都府ほか 【その他】 京都府立自然公園指定</p> <p><保津川下り> <嵯峨野トロッコ列車> ※冬期休業あり(1~2月) 料金：大人 4,100 円 料金：大人 880 円 小人 2,700 円 小人 440 円 乗客数：約 24 万人 (R1) 乗客数：約 134 万人 (R1)</p> 		
計画のテ ーマでの 位置づけ (※3)	自然に作庭され、歴史に育まれた「森の庭園」		

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	らくらくそうていえん ②楽々荘庭園	構成庭園の 所在地	京都府亀岡市北町 44
1 構成庭園 の概要 (※2)	<p>丹波と京都を結ぶ京都鉄道(現在の嵯峨野観光鉄道)を敷設した田中源太郎の旧邸にある庭園です。庭園の中央には芝生広場と大規模な園池があり、「森の京都」を代表する庭である美しい保津峡の景観を表現した池泉回遊式すり鉢状庭園となっています。</p> <p>庭園の作庭者は、後に国名勝として指定される無鄰菴(山縣有朋別邸)や平安神宮神苑など数々の庭園を作庭した七代目小川治兵衛です。建物からすり鉢のように低く造られた池泉庭園は、見る人に大きな広がりを感じさせ、保津峡の雄大な自然美を余すことなく伝えていきます。</p> <p>旧邸(洋館、和館、玄関)の3棟は、1997年に国の登録有形文化財として登録されており、現在の庭園を含む旧邸は、飲食店「がんこ京都亀岡楽々荘」として活用され、庭園を眺めながら四季折々の素材を活かした料理を味わうことができます。</p> <p>【開園面積】 約1,600㎡ 【入園料金】 飲食代のみ必要(見学料無料) 【公開時期】 通年 【施設管理者】 がんこフードサービス株式会社 【その他】 京都府登録文化財(名勝)</p>  		
計画のテ ーマでの 位置づけ (※3)	保津川渓谷を表現した「森の庭園」		

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	あな お じて い えん ③穴太寺庭園	構成庭園の 所在地	京都府亀岡市曾我部町穴太 東ノ辻 46
1 構成庭園 の概要 (※2)	<p>穴太寺は、705年に大伴古麿によって創建された、日本三百名山の愛宕山を臨む里山に鎮座する天台宗の寺院です。庭園は、多宝塔の東部を借景する池泉鑑賞式庭園で、江戸中期から末期にかけての手法をよく表現した丹波名庭の一つに数えられています。日本遺産である西国三十三所観音霊場の21番札所であり、本堂には撫でた部位の病が治ると伝わる「なで仏（釈迦涅槃像）」が安置されています。</p> <p>【開園面積】 400㎡ 【入園料金】 300円（本堂を含む場合は500円） 【公開時期】 通年 【施設管理者】 穴太寺 【その他】 京都府指定名勝</p> <p>〈福給会〉 毎年1月3日には、300年以上続く伝統行事である「福給会」が催されます。1から33番までの札3,000枚を本堂からまき、拾った番号によってくじが行われますが、そのうち3枚だけの赤い札を拾った人は1年間を幸せに過ごせるといわれています。</p> 		
計画のテ ーマでの 位置づけ (※3)	愛宕山を臨み鎮座する「里山の庭園」		

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	ばな さと ④ひがん花の里	構成庭園の 所在地	京都府亀岡市曾我部町穴太
1 構成庭園 の概要 (※2)	<p> 京都府亀岡市曾我部町穴太にある「ひがん花の里」は、彼岸花の名所です。見頃の時期になると、彼岸花が畦に沿って真っ赤に咲き誇り、収穫を終えて束ねられた稲藁との対比が大変美しく映えます。丹波の山々を借景に日本の原風景といえる美しい景観が広がる「里山の庭園」です。 </p> <p> 【開園面積】 94ha 【入園料金】 無料 【公開時期】 〈彼岸花の見頃〉 9月中旬～下旬 【施設管理者】 南条区 【その他】 〈南條ひがん花の里直売所〉 営業日：毎週水・日曜日 時間：午前8時～正午 付近には、地元の農家の方が運営する南條ひがん花の里直売所があります。 </p>    		
計画のテ ーマでの 位置づけ (※3)	古からつづく稲作と彼岸花が織りなす「里山の庭園」		




ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	せんじゅじ ⑤千手寺	構成庭園の 所在地	京都府亀岡市葎田野町鹿谷大タワ7
1 構成庭園 の概要 (※2)	<p>千手寺は、807年に弘法大師空海によって創建された臨済宗妙心寺派の寺院です。大師一刀三礼の作である十一面千手観音を安置していることから、千手寺といわれるようになりました。</p> <p>凜とした深い森の中の参道を抜けると、歴史を感じさせる木々に囲まれた頂上には、靈験あらたかな寺院が鎮座しています。山頂からの眺望は素晴らしく、眼下には丹波の山々が広がり、四季折々の森と里山の美しさを感じることができます。山門から見える風景は、まさしく「森の庭園」といえるもので、特に冬季には雲海が広がり、幻想的な雰囲気になります。</p> <p>【開園面積】約3,950㎡ 【入園料金】無料 【公開時期】通年 【施設管理者】千手寺 【その他】〈千日まいり〉 開催日：4月17日・7月17日 1日参ると千日参った御利益があるとされます。</p>   		
計画のテ ーマでの 位置づけ (※3)	古から深緑に秘められた「森の庭園」		

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	りょうおんじ ⑥龍穩寺	構成庭園の 所在地	京都府南丹市園部町 仁江甲溝畑1
1 構成庭園 の概要 (※2)	<p>龍穩寺は、1509年に創建された曹洞宗の寺院です。園部藩家老・太田氏の菩提寺とされており、本尊として釈迦牟尼佛を祀っています。</p> <p>豊かな山々に囲まれた静寂な寺院で、11月中旬から下旬にかけては、山門から境内までの石段が紅葉の落葉で赤い絨毯を敷き詰められたようになり、森の恵みを受けた大変美しい景観が広がります。歴史を感じる木立と赤く色づいた紅葉が風に靡く姿は、秋の「森の京都」を代表する「森の庭園」です。</p> <p>【開園面積】 約20,000㎡ 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年（紅葉の見頃：11月中旬～下旬） 【施設管理者】 龍穩寺 【その他】</p> 		
計画のテ ーマでの 位置づけ (※3)	深紅に染まる「森の庭園」		

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	しつ み はちま んぐう ⑦質美八幡宮	構成庭園の 所在地	京都府船井郡京丹波町 質美庄和ノ上 46
1 構成庭園 の概要 (※2)	<p> 質美八幡宮は、平安時代の創建と伝えられる由緒ある神社です。樹齢数百年の老杉の並木が続く約 400m の参道は、神秘的な雰囲気にも包まれています。静寂に包まれ荘厳に佇む本殿を臨むと、古の時代にタイムスリップしたかのような感覚を覚えます。悠久の時を感じさせる美しい深緑の木立を有する境内はまさに「森の庭園」といえるものです。 </p> <p> 【開園面積】 10.8ha 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 【施設管理者】 質美八幡宮 総代 【その他】 京都府登録文化財 </p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> 		
計画のテ ーマでの 位置づけ (※3)	古から深緑に秘められた「森の庭園」		

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	みやま さと ⑧美山かやぶきの里	構成庭園の 所在地	京都府南丹市美山町北
1 構成庭園 の概要 (※2)	<p>京都府南丹市美山町の北集落「かやぶきの里」は、江戸時代から明治時代に建てられた茅葺き屋根の家屋が多く残されています。のどかな田園地帯の中に昔ながらの茅葺き屋根の家屋が群集するこの地域には、日本の里山の美しい原風景が今もなお失われることなく存在しています。</p> <p>伝統的技法による建築物群を含めた歴史的景観の保存度が高く評価され、北集落は1993年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。現在では、集落の住民により組織された保存会や企業により、歴史的景観の維持管理、住民生活の保全が行われています。</p> <p>9月中旬～10月中旬には、地元住民でつくる「有限会社かやぶきの里」が栽培するソバの花が見頃を迎えます。一面に広がる小さな白い花々は、まるで里山に白い美しい絨毯がかけられたようで、人々に秋の訪れを告げます。美しい茅葺き屋根の家屋と豊かな山々を借景としたソバの花畑は、まさしく日本の原風景といえる美しい「里山の庭園」です。</p> <p>【開園面積】127.5ha 【入園料金】無料 【公開時期】通年（ソバの花の見頃：9月中旬～10月中旬） 【施設管理者】民間（個人）、 一般社団法人京都・美山・北村かやぶきの里保存会ほか 【その他】国選定重要伝統的建造物群保存地区</p> <p>〈かやぶきの里 雪灯廊〉 開催期間：毎年1月末～2月初旬 かやぶき屋根の家屋をライトアップし、冬の美山の暮らしと自然が織りなす「美の景観」を浮かび上げ、幻想的な風景を演出しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">写真提供はすべて美山 DMO</p>		
計画のテ ーマでの 位置づけ (※3)	古からの人々の営みを感じる「里山の庭園」		

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	ぐんせいち ⑨シャガ・ミツマタ群生地	構成庭園の 所在地	京都府綾部市老富町在中
1 構成庭園 の概要 (※2)	<p>水源の里・老富では、毎年3月下旬～5月中旬にかけて黄と白の可憐な花々が杉林一面を埋め尽くし、幻想的な光景に包まれます。</p> <p>シャガとミツマタは、鹿などの野生動物の食害に遭いにくいことから、森林の中に美しい花々が咲き誇ります。木々の合間を埋め尽くすように一面に咲く花々が木漏れ日に美しく彩られる様は、まさに静寂な「森の庭園」といえるものです。</p> <p>【開園面積】 約12ha 【入園料金】 無料（運営協力金200円/人） 【公開時期】 3月下旬～5月中旬（開花時期のみ） 〈見頃〉ミツマタ 3月下旬～4月中旬 シャガ 4月下旬～5月中旬</p> <p>【施設管理者】 水源の里老富 【その他】 〈花やどり〉 3月下旬から5月中旬のミツマタ・シャガの開花シーズンには、休憩所「花やどり」が開設され、温かいぜんざいや飲み物、地元特産品などが販売されています。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div>		
計画のテ ーマでの 位置づけ (※3)	木漏れ日に彩られた花々による「森の庭園」		

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	もといせないく こうたいじんじや ⑩元伊勢内宮 皇大神社	構成庭園の 所在地	京都府福知山市大江町内宮 217
1 構成庭園 の概要 (※2)	<p>元伊勢内宮 皇大神社は、三重県の伊勢神宮より 54 年も前に祀られたといわれている由緒ある神社です。杉の古木が立ち並ぶ深い森の中には、茅葺神明造の本殿や原初的な黒木の鳥居が厳かに鎮座し、境内には樹齢 2000 年と伝えられる御神木「龍灯の杉」があります。また、本殿の傍らに位置する神体山である日室ヶ岳は、一願成就の信仰があり、夏至には頂上に太陽が沈みます。悠久の時を感じさせる木立が荘厳な雰囲気をつたえる、美しい「森の庭園」です。</p> <p>【開園面積】 約 4.2ha 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 【施設管理者】 元伊勢内宮 皇大神社 【その他】 京都の自然 200 選</p>    		
計画のテ ーマでの 位置づけ (※3)	古から深緑に秘められた「森の庭園」		

その他計画の実施にあたって必要な事項

この「森の京都」エリアには、森と里山の恵みである豊かな食や受け継がれてきた文化が随所に存在するため、構成庭園と組み合わせることでより一層魅力的な周遊観光が可能です。

10の構成庭園に加えて、食文化や歴史、風土を感じられる体験プログラム、また季節の花の見どころを組み合わせることで、訪れる方々に「森の京都」エリアへの理解をより深めてもらうとともに、構成庭園をハブとした周遊観光の促進を図ります。



○京都府内でも随一の豊かな農産物

京都府が実施する「農産物直売所取組状況調査（令和2年度実績）」によると、府内の農産物直売所における地域別販売金額は、「森の京都」エリアである「南丹地域」が最多で、中でも販売金額が1億円を超える16施設の農産物直売所のうち6施設がこの「森の京都」エリアにあり、府内の他の地域と比べても最大数を誇ります。



○地域で受け継がれてきた伝統食・行事食

「森の京都」エリアに伝わる伝統食や行事食には、自然の豊かな恵みを大切にしてきた人々の知恵や工夫がたくさんつまっています。この地域、この季節にしか味わえない、山の幸や川の幸を使ったふるさとの味、人々はその恵みを味わうことで、自然や神仏に感謝する気持ちを育んできました。これらの料理は生活と密接に関わり、四季折々に行われる年中行事や祭礼行事などに欠かせない大事な食文化として、歴史や文化とともに受け継がれてきています。

「森の京都」を訪れる際には、この風土だからこそ生まれた、長い年月をかけて形作られ、受け継がれてきた伝統食や行事食をぜひエリア内の飲食店などで味わってみてください。



春のおすすめ



○栃もち



○山菜の天ぷら



○編笠の草団子



○チョロギ



○山ふぐ



○藤ごはん



○やまむろ団子

○わさびのおひたし

南丹市美山町芦生地区は、わさびが自生する貴重な産地として知られ、毎年4月10日には、おひたしにしたわさびを神前に供える「わさび祭り」が行われます。

芦生地区は険しい山中にあって田畑が少なく、古くから人々は猟と山菜をとることで生活し、冬になると熊狩りをして生計を立てていました。そのため、山の恵みである熊を獲るかわりにもう一方の山の恵みであるわさびは、年の暮れから祭りの当日まで口にしないことで狩猟の無事を祈るという風習があり、その風習は現代もなお残っています。





summer

夏のおすすめ



○癒封じ茶



○鮎寿司



○マルベリー



○とり貝寿司



○踊せんべい



○瑞穂そば



○手長エビ

○鮎の塩焼き

清らかな川に恵まれた「森の京都」エリアは、古くから鮎の名産地でもあります。かの有名な北大路魯山人もその味に惚れ込み、京丹波町を流れる和知川の鮎を生きたまま、東京まで運ばせていたほどです。

近年でもこのエリアの鮎の美味しさは健在で、令和4年に開催された全国の鮎を塩焼きにして味を競う「清流めぐり利き鮎会」では、南丹市の美山川の鮎が6度目の準グランプリに輝きました。

毎年、鮎の解禁の時期を迎えると、エリア内の料亭や旅館では、鮎の塩焼きをはじめとした、この時期ならではの鮎料理を食べることができます。



autumn

秋のおすすめ



○栗おはぎ



○鯖のなれ寿司



○黒豆の粕漬



○耳うどん

○松茸と地鶏のすき焼き

亀岡市では、古くは庭先で鶏を飼う家が多く、慶弔時や地域の祭りの際などの人が集まる機会には「かしわ（鶏）のすき焼き」が食され、現代においても地域名産の松茸を入れたすき焼きは絶品です。

亀岡市保津町で毎年10月20日に行われる「保津の火祭り」は、50基の高張提灯を持った行列が見られる伝統の祭りであり、祭りの際の楽しみとして、皆で「松茸と地鶏のすき焼き」を囲む姿が今もなお見られます。また、訪れた人々も市内の料亭などで食べることができます。



winter

冬のおすすめ



○納豆餅



○水菜と猪の鍋



○あやべ茶



○丹波大納言小豆



○七色餅



○どぶろく



○鹿肉のロースト



○かぶら蒸し

○ぼたん鍋

薄切りの猪肉を皿の上に盛りつけると美しい牡丹の花のことから「ぼたん鍋」と呼ばれています。この「森の京都」エリアで古くから食べられてきた、冬ならではの「山の恵み」です。

猪猟が解禁される時期になると、エリア内にある多くの料亭や旅館で食べることができます。



□古くから脈々と受け継がれてきた「文化」を感じる体験

○保津川下り（亀岡市）

江戸時代に開かれた水運は、鉄道や自動車といった輸送手段の発達により産業水路としては廃れたものの、美しい渓谷を臨むこの急流は、現代では観光の舟下りとして人気を博しています。

河原に点在する岩には、船頭の差す竿の跡や戻り舟を人力で引き上げた綱の跡が所々についており、舟下りの歴史を物語っています。



○茅葺き（南丹市）

日本の原風景の象徴でもあり、古くから受け継がれてきた茅葺き屋根は、職人の技術によって支えられ、現代もなお人々の暮らしを守っています。

「美山 FUTON&Breakfast」が実施する「茅葺き体験」では、伝統ある茅葺きの仕組みや歴史にふれながら、実際に地上に組んだ屋根組で職人が実際に使用する道具を用い、茅葺き屋根の屋根葺きを体験できます。



○和知人形浄瑠璃（京丹波町）

始まりは江戸時代末期の大迫村で、小型の張りぼて人形数個を操って農閑期に楽しんでいたこととされており、人形が大ぶりであること、一体の人形を一人で操ることを特徴とし、昭和 60 年には京都府指定文化財（無形民俗文化財）に登録されています。

京丹波町の「道の駅和」に隣接する「伝統芸能常設館」では、今もなお定期的に上演されています。



○丹波の漆かき（福知山市）

夜久野町は、古くから有数の漆の産地であり、明治時代には漆の木から漆液を採取する 500 人もの「漆掻き職人」がこの地域にいたといわれています。外国産の漆の台頭や産業の移り変わりにより全国の漆の産地が次々と姿を消すなか、貴重な技術を絶やすことなく継承し、京都府の無形民俗文化財に登録されています。

「やくの木と漆の館」では、資料展示や漆器などを販売するショップ、若手地元作家を中心とした漆芸作品のギャラリーがあり、天然の漆を用いた「漆塗り」なども手軽に体験することができます。



○黒谷和紙（綾部市）

黒谷村で 800 年以上にわたり、作り続けられてきた「黒谷和紙」は、鎌倉時代に平家の落人が生活の糧としてこの集落で始めたとき、昭和 58 年に京都府指定無形文化財に指定されています。今もなお昔ながらの手漉きで、職人により一枚一枚丁寧に作られた「黒谷和紙」は、丈夫で強く、長持ちするのが特長です。

集落内にある「黒谷和紙会館」では、資料展示や和紙工芸品の販売コーナーがあり、職人によるガイド付きの工房案内のほか、伝統ある和紙の手漉きも体験できます。



□季節の花の見どころ

※（ ）内には所在する市町、営業時期及び見頃を記載

○わち山野草の森（京丹波町、通年、通年）

総面積 12ha の園内は、自然をそのまま生かした公園となっており、素朴な草花や樹木を見ながら楽しく散策することができます。山野草や樹木、果樹など約 900 種類の植物があり、変化に富んだ四季折々の花などが楽しめます。

年間 15 回を超える山野草展をはじめ、木工クラフト、苔玉づくりや寄せ植えを体験することができます。



○亀岡さくらウィーク（亀岡市、季節限定、3月～4月）

桜が咲き誇る 3 月下旬から 4 月初旬頃までの期間を「亀岡さくらウィーク」と称し、市内 4 か所の桜の名所において、幻想的な雰囲気を楽しめる夜間のライトアップを行っています。また、七谷川（和らぎの道）では、地元の飲食事業者が中心となって出店し、美味しいものが集結する「亀岡さくらマルシェ」を開催しており、電車で訪れる方のために期間限定のシャトルバスも運行しています。



○綾部バラ園（綾部市、通年、5～6月、10～11月）

造成から苗の植栽まで市民を中心としたボランティアの協力の下に開園されたバラ園で、現在もボランティアにより維持管理が行われています。「アンネの日記」の作者アンネ・フランクの父オットー氏から日本へ贈られた苗木を綾部市在住の親子が根付かせて株を増やした「アンネのバラ」をシンボルとして、園内には 150 種類約 1,200 本のバラが植栽されています。

春と秋には「バラまつり」も開催され、期間中は隣接する「あやべ特産館」で上質なバラ苗の販売があります。



○ききょうの里（亀岡市、季節限定、6～7月）

明智光秀ゆかりの谷性寺門前の「ききょうの里」は、地元住民により季節限定で開園され、光秀の家紋にちなんだ約3万本のキキョウの花が咲き誇ります。園内には、紫や白、ピンクの可憐なキキョウの花のほか、アジサイやトラノオ、ルドベキア、ユリなどが植栽され、多彩な花々を楽しむことができます。

園内に併設する販売所では、地元農家の朝採れ野菜や地元陶芸家の作品を購入でき、かき氷などの軽食や鉢植えのキキョウも販売しています。



○観音寺（福知山市、通年、6～7月）

眼病が治ったお礼にと植えられたアジサイが所以で多品種が植樹されたことにより、「あじさい寺」として知られるようになりました。

「関西花の寺霊場第1番札所」でもある観音寺は、約100種1万株のアジサイが咲き誇る美しいお寺です。せせらぎが流れる境内は、新緑や紅葉も美しく、アジサイだけでなくシダレザクラやロウバイなど、四季折々に彩られます。



○平の沢池（亀岡市、通年、8月）

平の沢池には、淡いピンクのハスの花が約3haにわたって一面に咲き、ハスの花と緑色の大きな葉が夏の青空に映える、この季節ならではの美しい風景が広がります。

近年では数を減らしているものの、全国的にも珍しい自生しているオニバスを見ることもできます。

また、冬になるとカモ類やサギ類など多くの渡り鳥が訪れることから、「水鳥のみち」として散策道が整備され、バードウォッチングに絶好の場所としても知られています。



○夢コスモス園（亀岡市、季節限定、10～11月）

地元住民により季節限定で開園される「夢コスモス園」は、約4.2haの広大な敷地に20品種約800万本のコスモスが咲き誇ります。

園内では、京都丹波・亀岡の味覚が一堂に集結する「丹波味わい市」や、ユーモラスな作品が盛りだくさんの「創作かかしコンテスト」などの楽しいイベントも開催されます。ドッグランも併設されており、犬連れの方も楽しめるスポットです。



□「森の京都」を感じる

○農家民宿（森の京都エリア全体）

森の京都エリアには約 80 軒の農家民宿があり、素朴でありながらも豊かな里山の暮らしを実際に体験することができます。四季折々の美しい里山の自然を身近に楽しむことも農家民宿の魅力の一つです。日帰りでの体験が可能な施設もあり、気軽に体験することができます。

福知山市の農家民宿「ふるま家」では、江戸時代からの茅葺き屋根の古民家に宿泊し、オーナーが育てる無農薬・無化学肥料の野菜など素朴な家庭料理を味わうことができ、外国人宿泊客も多く訪れています。

綾部市の田舎体験施設「田舎家そらしど」では、築約 100 年の茅葺き屋根の古民家で、竈での調理と特産の緑茶である綾部茶を火鉢で焙煎することができる食事付きの体験プランがあり、昔ながらの田舎の暮らしを日帰りで気軽に体験できます。



○ハイキング（森の京都エリア全体）

森の京都エリアには、美しい大自然の魅力を存分に感じることでできるハイキングコースやトレッキングコースが多数あり、四季を通じて多くの方が訪れています。

福知山市にある大江山連峰は、「酒呑童子」をはじめとする鬼伝説が残る神秘的な山であり、初めて山を登る方にもおすすめのビギナールートや約 16km にも及ぶ本格的なロングトレイルルートも整備されています。

南丹市にある「芦生の森」は、西日本随一の原生林であり、植物や動物、昆虫などの生態が豊富です。地元のネイチャーガイドによるツアーが年間を通して実施されており、エコツアーとして人気を博しています。



実施する事業と実施体制

(1) これまでの取組

□行政と住民による緑化の取組み

○オープンガーデンかめおか（亀岡市）

花と緑の庭園都市の実現に向け、市民が庭を巡り、人との出会いや市民参加の花と緑のまちづくりを推進するために毎年実施する取組みです。令和4年度は、道の駅「ギャラリーかめおか」をメイン会場とする2日間の開催で、市内から41邸の参加がありました。

開放された個人宅の庭には、丹精込めて手入れされた色とりどりの花が咲き乱れ、メイン会場となった「ギャラリーかめおか」では、寄せ植えや押し花の体験教室、バラの鑑賞案内などが行われ、多くの人でにぎわいました。



○花時計（福知山市）

花いっぱい運動の推進のため、平成22年に市民によるまちづくり運動のシンボルとして JR 福知山駅北口公園に花時計を設置しています。

花時計の花苗の植替えは、年4回、福知山市市民憲章推進協議会を中心とした市民とともに実施しています。



○保津川溪谷の岩つつじ捕植（亀岡市）

かつて初夏の保津川溪谷を色鮮やかに彩っていた岩つつじですが、近年は鹿による食害や増水などで開花数が減少しつつあります。その彩りある景観を取り戻そうと、地元ボランティアグループ「亀岡山野草を守る会」を中心に、保津川下りを運行する「保津川遊船企業組合」と市の観光協会は、毎年、岩つつじの捕植作業を行っています。

50周年を迎えた令和4年には、約20人の参加者が岩つつじの苗を舟に積み込んで出発し、溪谷の好適地数か所に着岸して捕植作業を行いました。

このような地道な活動が環境保全是もちろん、訪れる人へのおもてなしにも繋がっています。



○綾部バラ園の開園（綾部市）

市制 60 周年を記念して平成 22 年にオープンしたバラ園は、ボランティアグループ「綾部バラ会」を中心とする約 180 名によって維持管理を行っています。

毎週土曜日には定例活動を行い、この美しいバラ園を保っています。また、定例活動の後には、園内でメンバー同士が談笑し、楽しく活動しています。



○ききょうの里の開園（亀岡市）

地域を盛り上げるために地元住民が中心となり、令和 4 年で 20 回目の開園です。園内は、地元住民による手づくりで、付近の竹林から切り出した竹を用いて花壇の仕切りにするなど工夫を凝らし、風流な和風の庭を作りあげています。

開園中の園内には販売所を併設し、地元農家や陶芸家の商品を販売することで、地元事業者の活性化にも貢献しています。



○夢コスモス園の開園（亀岡市）

地元住民を中心とする実行委員会が地域を盛り上げるために主催しており、令和 4 年で 23 回目の開園となります。関西でも最大級の規模を誇る広大な敷地は、除草作業が大きな負担ではありますが、一面に広がるコスモスが秋のさわやかな風に吹かれて揺れる様は圧巻で、年々来場者が増加しています。

また、開園期間中の園内では、地元事業者による軽食などの販売があり、地域経済にも貢献しています。



(2) 今後の取組

①モデルツアーの企画

構成する庭園と里山の恵みである豊かな「食」や伝統を感じることでできる「体験」を組み合わせ、「森の京都」を満喫することのできるツアーを企画する。

②ガイドブックなどの作成や情報発信

構成する庭園の見どころやモデルコース、豊かな「食」を味わうことのできる飲食店や伝統と文化を感じることでできる「体験」など、「森の京都」の魅力を掲載したガイドブックを作成し、SNSやメディアを活用したプロモーションを展開する。

③ガイドの育成・組織化

森の京都 DM0 が既に実施している「ローカルガイド講座」の受講生への積極的な情報発信や、ガーデンツーリズムをテーマにした研修などを行い、「森の京都」のガーデンを案内できる人材を育成する。また、各構成庭園におけるガイドが可能な既存の人材に対する知識の共有やブラッシュアップも行い、ガーデンツーリズムガイドとしての連携を図る。

④インバウンドへの PR

海外や国内での商談会や旅行会社への営業を通して海外への積極的な情報発信を行い、インバウンドへの強力なアプローチをかける。

⑤豊かな里山の恵みを使用した飲食物や伝統の技法を活用したお土産の開発・販売

エリア内の飲食店で地元産の農畜産物を使用した料理の提供ができるような取組みを行うとともに、同食材を使用したスイーツなどお土産用の加工品を開発する。また、伝統の技法を活用して現代風のデザインを施した新商品の開発も行う。新たに開発した商品は、ガイドブックへの掲載やメディアを活用したプロモーションを行うとともに、構成する庭園でお土産として販売する。

⑥「ごていん御庭印」の制作・販売

「森の京都」で、エリア内の城や城址の来訪記念品として購入することができる「ごじょういん御城印」を制作して好評を博しているため、新たに「御庭印」を制作し、既存の「御城印」とも連携していくことで、新しい魅力的な観光資源の一つに育てていく。

(3) 協議会の構成員

森の京都ガーデンツーリズム協議会

〔事務局〕 一般社団法人 森の京都地域振興社(森の京都 DM0)
【京都府知事登録 旅行業 第2-696号】

〔行政〕 亀岡市、南丹市、京丹波町、福知山市及び綾部市の4市1町

〔関係団体等〕 一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社(海の京都 DM0)、一般社団法人京都山城地域振興社(お茶の京都 DM0)、一般社団法人亀岡市観光協会、八木町観光協会、一般社団法人園部文化観光協会、日吉町観光協会、一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会、一般社団法人京丹波町観光協会、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社福知山地域本部(福知山観光協会)、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社綾部地域本部(綾部市観光協会)、公益財団法人亀岡市都市緑花協会及び特定非営利活動法人亀岡・花と緑の会

(4) 事業の実施体制



○協議会を務める森の京都 DM0 が主となって京都府や構成市町とともに取り組み、あわせて協賛企業や団体、ボランティアなどを募集することにより強力な推進体制の構築を図る。

○各観光協会や地元の観光・飲食・交通事業者などと連携し、旅行商品の企画・開発を図る。

○二次交通の充実に向け、サイクルツーリズムとの連携強化に取り組む。

(5) 具体的な事業

様式1-9のとおり

具体的な事業一覧表

事業名①	森の京都庭園周遊ツアーの企画・催行		
実施主体	協議会（事務局：森の京都 DM0）	事業期間	令和5年度～令和9年度
実施施設	全施設		
事業概要	<p>協議会の事務局を務める森の京都 DM0 がもつ旅行商品の企画力と旅行催行のノウハウを活かし、構成庭園を主軸に豊かな「食」や「文化」を満喫することのできるツアーの企画を行う。</p> <p>〈今までに企画・催行したツアー〉</p> <p>参考：令和3年度ツアー数実績 29件</p> 		
事業名②	ガイドブックなどの作成や情報発信		
実施主体	協議会（事務局：森の京都 DM0）	事業期間	令和5年度～令和9年度
実施施設	全施設		
事業概要	<p>各庭園の見どころやモデルコース、飲食店や体験プランなどを記載したガイドブックの作成や季節ごとの見どころをまとめたパンフレットを作成する。</p> <p>作成したガイドブックやパンフレットは、森の京都 DM0 のもつ連携を活かし、JR西日本の主要駅や道の駅等に配架し、効果的な集客を図る。</p> <p>また、森の京都 DM0 のホームページやインスタグラムなどの SNS を活用し、本計画の広報に努める。</p> <p>〈今までに発行したムック本・現在のホームページ〉</p> <p>参考：令和3年度 HP アクセス数 約 27 万</p> 		

具体的な事業一覧表

事業名③	ガイドの育成・組織化		
実施主体	協議会（事務局：森の京都 DMO）	事業期間	令和 5 年度～令和 9 年度
実施施設	全施設		
事業概要	<p>協議会の事務局を務める森の京都 DMO には既に登録ローカルガイド制度があり、4 日間にわたる規定の講座及び安全講習を受講したローカルガイド 10 人を擁立している。このノウハウを活かし、ガーデンツーリズムガイドの育成に努めるとともに、既存の登録ローカルガイドに対し、新たにガーデンツーリズムをテーマにした研修を行うことで、ローカルガイドとガーデンツーリズムガイドとの兼任を図る。また、各構成庭園におけるガイドが可能な既存の人材に対しても新たに同様の研修を行うことで、知識の共有やブラッシュアップを図り、ガーデンツーリズムガイドとしての連携も図っていく。</p> <p>〈令和 4 年に開催のローカルガイド講座〉</p>  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>講座内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しくて価値のある Walking Tour 特徴、基本 ・ガイド視点から見た歩き旅とは？ ・体力とところのメンテナンスの大事さ ・ガイドに求められる資質と姿勢 ・ツアーリーダーの役割 ・ツアー実施中に頭の中でする基本手配 ・装備、救急キット ・安全対策、リスク管理、事故事例紹介 ・フィールド研修の振り返り ・講座全体のまとめ、振り返り </div>		
事業名④	インバウンドへの PR		
実施主体	協議会（事務局：森の京都 DMO）	事業期間	令和 5 年度～令和 9 年度
実施施設	全施設		
事業概要	<p>協議会の事務局を務める森の京都 DMO は、海外や国内での商談会に数多く出展し、保有するメーリングリストには、海外の旅行会社約 600 社が登録されていることからインバウンドへの積極的な情報発信が可能である。この強力な情報発信力を活用し、インバウンドに対しての積極的な PR を図っていく。</p> <p>〈VISIT JAPAN トラベル&マイス マート(2019 年)〉</p>  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>出展実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ○VISIT JAPAN トラベル&マイス マート 2017、2018、2019、2021 オンライン ○タイ国際旅行フェア 2017、2018、2019 ○アドベンチャー・トラベル・ワールド・サミット 2022 ○関西観光本部 台湾大商談会 2018、2019、2020 オンライン、2021 オンライン ○フランス現地旅行会社営業 2018 ○オーストラリア現地旅行会社営業 2018、2019 </div>		

具体的な事業一覧表

事業名⑤	豊かな里山の恵みを使用した飲食物や伝統の技法を活用したお土産の開発・販売		
実施主体	協議会（事務局：森の京都 DM0）	事業期間	令和 5 年度～令和 9 年度
実施施設	全施設		
事業概要	<p>協議会の事務局を務める森の京都 DM0 は、里山の恵みである地元産の野菜を使用した商品「京野菜ピクルス」の企画・販売実績や森の恵みであるジビエを冠するフェアの開催実績がある。このノウハウを活かし、新たな商品の開発やフェアの開催により、本計画自体をより魅力的にするとともに、観光消費額の増大に努める。</p> <p>〈オリジナル商品の企画・販売及びフェアの開催〉</p> <p>参考：令和 4 年度ジビエフェア参加飲食店数 38 店舗</p> 		

事業名⑥	ごていん 「御庭印」の制作・販売		
実施主体	協議会（事務局：森の京都 DM0）	事業期間	令和 5 年度～令和 9 年度
実施施設	全施設		
事業概要	<p>協議会の事務局を務める森の京都 DM0 では、エリア内の城や城址の来訪記念品として「御城印」を制作・販売し、好評である。新たに「御庭印」を制作し、既に好調な「御城印」と連携することで、確かな観光誘客力のあるコンテンツに育てる。また、御城印の紙は地元の和紙を使用し、地域振興の一助にもなっている。</p> <p>〈19 種類の御城印の PR〉 参考：令和 3 年度御城印販売実績 約 1 万 3 千枚</p> 		

(様式2)

令和4年9月30日

国土交通省都市局長 殿

森の京都ガーデンツーリズム協議会
会長 桂川 孝裕

庭園間交流連携促進計画の登録申請について（提出）

標記の件について、別紙のとおり提出します。

なお、本件は申請者として挙げた全ての構成員の合意の下に提出するものであることを申し添えます。

担当者連絡先			
氏名	浅田 瑞木		
電話	0771-22-9800	FAX	0771-22-9801
E-mail	m.asada@morinokyoto.jp		
住所	(〒621-0804) 京都府亀岡市追分町谷筋 25-30		